

保育内容「表現」および「言語」におけるオペレッタの実践 —子どもに分かりやすい表現をめざして—

小倉 隆一郎*

Practice of the Operetta in a Childcare Contents “Expression” and “Language”: For the Expression that a Child is Easy to Understand

Ryuichiro OGURA

要旨 筆者は2014年から、保育内容の「表現」「言葉」の領域にかかわる授業を担当している。保育実践の方法を身につけることを目的に、2016年度は手遊び・絵本・紙芝居・パネルシアター・ペープサート、そして最後にまとめとしてオペレッタの演習を行った。オペレッタは準備に2コマ、発表に2コマを使い、学生の創作・演出により8名から9名のグループによるパフォーマンスを行っている。台本と小道具の制作、および演出にあたっては、「子どもに分かりやすい表現」をねらいとした。本論では、学生からのコメントと発表のビデオを検証した結果、シナリオや構成、小道具の制作、音楽の使用について、上のねらいに沿った表現の工夫が認められた。これらの実践演習を通して、学生が子どもの豊かな感性や創造性を育む必要性を理解してくれたものと確信する。

キーワード：保育内容「表現」 保育内容「言葉」 オペレッタ 幼児教育

1. 研究課題

本学の教育学部心理教育課程では、保育内容の5領域を次の3科目で分担している。「保育内容A」は総論と「人間関係」の領域、「保育内容B」は「表現」と「言語」, 「保育内容C」は「環境」と「健康」を扱う。筆者は、2014年度から「保育内容B」を2クラス担当している。シラバスに掲載している授業の目標は以下の通りである。「幼児の豊かな感性と表現力を育むことをねらいとし、「表現」「言葉」の領域における保育実践の方法を身につける。具体的には、手遊びや絵本・紙芝居を通して、子どもの興味を喚起し表現力を獲得する。また、パネルシアター・ペープサートを制作し実践する。リトミックとオペレッタの企

画・制作の方法を理解し実践する。」当科目の現在の授業内容は次章で述べるが、「表現」と「言語」を合わせた総括として、授業の終わり2コマを使って、学生の創作・演出によるオペレッタのパフォーマンスを行っている。オペレッタの演習にあたっては「子どもに分かりやすい表現」をねらいとし、学生には、ねらいに沿った創作の工夫を期待している。保育内容「表現」の授業の目標について、清水は科目「音楽表現」のねらいの1つとして「さまざまな表現活動ができるよう創意工夫ができる」(清水 2014) ことを挙げている。オペレッタのパフォーマンスは、準備段階での学生のかかわり方、また演技者の熱心な取り組む様子を見れば、当初の授業目標をある程度達成できていることは感じられる。本論では、オペレッタのパフォーマンスのビデオと学生のコメントを検

* おぐら りゅういちろう 文教大学教育学部心理教育課程

討することにより、「子どもに分かりやすい表現」に向けて如何なる工夫がされているか、またその結果として授業目標が達成され、学生の創作力・表現力がついているかについて検証する。

2. 「保育内容B」授業の概要

「保育内容B」は、保育内容の領域の内、「表現」と「言語」に関連する表現活動を学生が実践する演習授業である。表現活動の実践は、保育者・教師役の学生とそれ以外の学生は幼児の役を演じるロールプレイングの形式で行う。表現活動は次の5つのテーマに分けられる。

- ①手遊び
- ②絵本の読み聞かせ
- ③ペープサート・パネルシアター
- ④リトミック
- ⑤オペレッタ

上の①手遊びは、オリエンテーションの1回目およびオペレッタの発表を行う14回目と15回目を除く、2回目から13回目の各授業の始めに、あらかじめ割り当てられた4～5名の学生によるロールプレイングを行う。②から⑤の表現活動は表1のスケジュールで授業に組み入れている。

表1 「保育内容B」授業のスケジュール

回数	授業のテーマ
1	オリエンテーション 保育内容「表現」「言語」について
2	絵本の読み聞かせ①
3	絵本の読み聞かせ②
4	絵本の読み聞かせのふり返り
5	ペープサート・パネルシアター 準備・制作
6	ペープサート・パネルシアター演習①
7	ペープサート・パネルシアター演習②
8	子どもの歌をつくる
9	リトミック準備
10	リトミック演習①
11	リトミック演習②
12	オペレッタ企画・準備
13	オペレッタ企画・準備・制作
14	オペレッタ発表①
15	オペレッタ発表②

表1の各テーマの概要を以下に述べる。

1回目のオリエンテーションは、「保育所保育指針」および「幼稚園教育要領」における「言葉」と「表現」の内容を解説し、以降の演習テーマとの関連を理解させることを目標としている。主な資料は、「保育所保育指針」(厚生労働省2008)の第3章「保育の内容」、1. 保育のねらい及び内容、の(2)教育に関わるねらい及び内容から、エ言葉、とオ表現、の文章をコピーしたもの、「幼稚園教育要領」(文部科学省2008)の第2章 ねらい及び内容から言葉と表現の文章をコピーしたレジюмеである。また、この解説用のレジюмеとは別に、上の文章から主要な部分を抜粋し、穴埋め問題に作り替えたプリントを用意した。表2は「幼稚園教育要領」の穴埋め問題の一部である。

表2 「幼稚園教育要領」穴埋め問題例

言葉 経験したことや考えたことなどを□A1□ の言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする□A2□や□A3□を育て、言葉に対する□A4□や□A5□で表現する力を養う。 (以下、続く)
--

2回目から4回目、絵本の読み聞かせの演習は、6～7名ずつのグループで、ロールプレイング形式の演習を行う。初めに筆者から、以下、絵本・紙芝居の読み聞かせのポイントを提示し簡単に解説した。

1. 子どもの年齢を設定
2. 利き手でない手で絵本を支え、利き手でめくる
3. 絵本は子どもの目線の一寸上
4. 読むスピードはモデラート
5. 自然な抑揚とテンポの変化
6. オープニング・導入が大切
7. 絵本は表紙から始まる
8. 話しをていねいに集中して読む 途中、子ども

もから言葉をかけられたら、簡単に対応するが、読み手からの問いかけ話しかけは最小限に

9. エンディングに優しい一言を添える
読み聞かせの時間配分は7分、その後グループで5分間ディスカッションを行う。ディスカッションの観点は次の4つを事前に伝えた。

1. どこが良かったか、優れている点
2. 導入で子どもを引き付けられるか
3. 聴きやすく分かりやすくプレーできたか
4. 内容に沿って、自然な表現ができたか

5回目、ペープサート・パネルシアター準備・制作は、テーマの設定・内容の検討そしてテーマに即した人形や背景を制作する。

6～7回目の授業におけるペープサート・パネルシアター演習の方法は、絵本の読み聞かせと同様である。

8回目の「子どもの歌をつくる」は実習期間であり、幼稚園実習に行かない、半数の学生を対象に、子どもの歌の創作を行う。全員での授業が行えないため、「表現」と「言語」にかかわる特別な内容としている。

9回目「リトミック準備」では、筆者が用意したリトミックの課題をグループで検討し、グループのメンバーが指導者となり、全員でリトミックの活動ができるように練習をする。

10～11回目の「リトミック演習①②」は、9個のグループが順に教師役となり、それぞれに与えた課題についてパフォーマンスを行う。その際、他の学生は全員で子どもとしてふるまい、参加する。

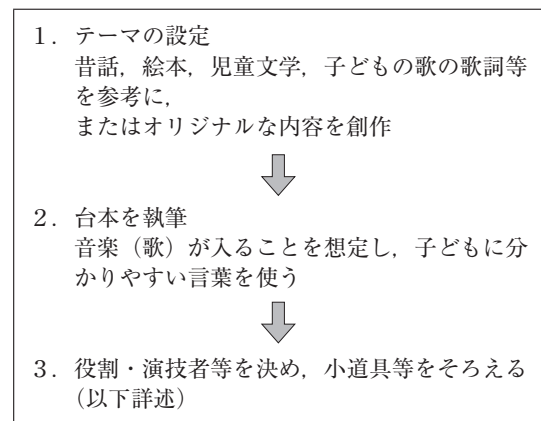
12回目から15回目の授業は、「表現」と「言語」の総まとめとして、子ども向けのオペレッタを企画・制作する内容である。次章で詳述する。

3. オペレッタの企画・制作

12回目の「オペレッタ企画・準備」では、次の準備手順を説明し、その後、筆者が作成したオペレッタの台本「ハミガキしようね」（付録参照）

により模擬公演をおこなった。13回目「オペレッタ企画・準備・制作」は、グループごとにテーマの設定、台本作成、小道具の制作、練習を行う。オペレッタの準備手順の説明は、上の「ハミガキしようね」の制作過程を想定し、分かりやすい内容・表現を心掛けた。準備手順のおおまかな流れは以下の通りである。

表3 準備手順のおおまかな流れ



「テーマの設定」については、昔話や絵本、児童文学、子どもの歌の歌詞等を参考にし、場合によっては元のストーリーを一部変更してもよい、との説明を行った。また、グループで話し合い、オリジナルのストーリーを考えることを推奨した。結果、本年度、2クラスで計18グループのテーマの内訳は、表4の通りである。

表4 テーマの内訳

テーマのソース	グループ数
童話	4
絵本	2
日本の昔話	3
子どもの歌	2
ディズニー関連	5
オリジナル作品	2

「童話」は『赤ずきんちゃん』『不思議の国のアリス』『オオカミと3匹の子ヤギ』『ヘンゼルとグレーテル』、イギリスの児童小説である『不思議

の国のアリス』以外の3作品はグリム童話からの物語である。

「絵本」は『ぐりとぐらとまなとまこ』『ねないこだれだ』である。『ぐりとぐら』はロングセラーのシリーズ絵本であるが、「まなとまこ」は出演する学生の名前。

「日本の昔話」は『桃太郎』『浦島太郎』である。『桃太郎』は2つのグループがテーマに選んだ。

「子どもの歌」は『みずのたび』と『やまのおんがくか』である。『みずのたび』はNHKテレビの子ども番組で歌われた。『やまのおんがくか』はバイオリン・ピアノ・フルート・太鼓の音がオノマトペで歌詞に含まれる。学生は実際に楽器を演奏して表現した。

「ディズニー関連」では、『3匹の子ブタ』『ライオンキング』『白雪姫』『フィルハーマジック』である。『3匹の子ブタ』と『白雪姫』は初期のアニメーション、『ライオンキング』はアニメとミュージカル、『フィルハーマジック』ディズニーランドの同名アトラクションを土台にしている。「オリジナル作品」は『みんななかよし』『野菜をたべよう』である。『みんななかよし』はアンパンマンのキャラクターと歌を使い、『野菜をたべよう』は「うんとでろうんち」の歌を含めたオリジナルなストーリーを作った。

テーマが決まれば、台本を書く。台本は、演技者の台詞を縦書きで記すが、台詞のすべてを書いた完全なものではなく、アウトラインを指示し、あとは演技者によるアドリブの台詞にまかせる形式も可である、と説明した。台本の書き方については、筆者が作成したオペレッタの台本「ハミガキしようね」を全員にプリントし配布した上で、おおまかな執筆のフォーマットを示した。付録1に、学生に提示した「ハミガキしようね」の台本を収録した。

企画・制作にあたっての留意する事項として下の表5の文言をプリントして配布した。

表5 企画・制作にあたっての留意事項

オペレッタ制作について 1. 各グループ、10分以内にまとめる 2. 音楽・歌・ダンス・BGM等を適宜入れる CD-Rは再生できるかどうか、試してください 3. グループのメンバー全員が、必ずしも出演する必要はありません。が、実習等で不在の人以外は、何らかの役割をもってください。
--

14回目と15回目の授業は、各日、4グループと5グループに分けてオペレッタの発表を行った。

4. 学生のコメントから

学生が創作したオペレッタは、14回目と15回目の授業で、各クラス9グループが発表した。

学生には、自分が所属するグループ以外の8つの発表について、表6のコメント用紙を配布し、その場で記入させた。

表6 オペレッタ・コメント記入用紙（冒頭部分）

子どものためのオペレッタ コメント				
年__月__日__限 Group No.____ 学籍番号____ 氏名____				
1	パフォーマー	__グループ	設定	教師・保育者が演技 子どもが演技
テーマ				
プレイ内容(シナリオ、分かりやすさ、etc.)				
工夫した点				
全体に (楽しめたか?, etc.)				

表6のオペレッタ・コメント記入用紙に学生が書いたコメントを、下の3つの観点に分けて集計する。

- ①シナリオや構成等全体について
- ②演技や小道具について
- ③音楽・BGMに関して

4-1. 「赤ずきんちゃん」のコメント

全18グループのオペレッタ作品から、初めに童話「赤ずきんちゃん」をベースにしたオペレッタに対するコメントを表7～表9にまとめる。右端

の数字は同じ内容のコメントを書いた学生の人数である。

表7 「赤ずきんちゃん」のコメント①

①シナリオや構成等全体について	
全体に楽しかった	22
シナリオを変えて現代版赤ずきんちゃんにしたことが良い	18
内容が工夫されて面白かった	13
赤ずきんを双子にした点がユニーク	12
ギャグやユーモアが入ってあきない	8
ハッピーエンドにしたことが良い	5
狼が個性的でおもしろい	3
園児には分かり難い部分がある	1
台詞がおもしろい	1
現代的すぎる	1
狼が反省するところが教育的	1
少し年齢が上向き	1
準備がしっかりできていた	1

表8 「赤ずきんちゃん」のコメント②

②演技や小道具について	
目や耳や口の大きさをアピールした	15
小道具がしっかり作られていた	12
声が大きく台詞がはっきり分かりやすい	10
狼のお腹がふくれる工夫が面白い	10
台詞を暗記して流れがスムーズだった	9
お面と衣装が分かりやすい	2
配役が適切だった	1
絵が上手く見やすい	1
現代的な台詞を取り入れている	1
役によって台詞の音色を変えていた	1

表9 「赤ずきんちゃん」のコメント③

③音楽・BGMに関して	
「幸せなら手をたたこう」が効果的	4
「お母さん」の替え歌が良い	4
皆が知っている歌で楽しめた	3
BGMのタイミングが適切	3
手遊びを入れて面白い	1

4-2. 「山の音楽家」のコメント

「山の音楽家」は同名の子どもの歌を題材に、学生が自ら構成とシナリオを考案したオリジナル作品である。視聴した学生のコメントを表10～表12にまとめる。

表10 「山の音楽家」のコメント①

①シナリオや構成等全体について	
全体に楽しめる内容だった	12
一人ずつ奏者が増えていく合奏が良い	10
皆が楽器を弾いて凄かった	9
一人よりみんなが楽しい（テーマ）が伝わった	8
感動（感激）した	3
楽器を使いリアルな演技が楽しい	2
完成度（クオリティー）が高い	2
保育者の個性が光る素敵な発表だった	2
歌の部分が参加型で、楽しめる構成	2
もう少し物語があればさらに良くなる	2
最後に皆で弾くまねをして歌い楽しい	1
役が分かりやすい	1
笑いは少なかったが楽器が派手で面白い	1
楽器に触れる機会があるとよかった	1
劇としての起承転結がなかった	1
一生懸命練習していたので、今日の発表が非常に楽しかった	1

表11 「山の音楽家」のコメント②

②演技や小道具について	
掲示した歌詞を次々に張り替えて歌いやすい	5
お面が分かりやすい	1
動物に合わせて歌詞と振りをかえて、歌いやすかった	1
台詞がハキハキして分かりやすい	1

表12 「山の音楽家」のコメント③

③音楽・BGMに関して	
様々な楽器の演奏で盛り上がった	35
替え歌が分かりやすく、歌いやすい	6
合奏がきれいで厚みがあり楽しめた	5
楽器の音と触れ合うことは、子どもの成長にプラスの効果を与える	2
子どもたちの音楽への興味を喚起する工夫があった	2
音楽に乗れて楽しめた	2
「この楽器はこんな音」との説明が良い	1
本当のオーケストラのようだった	1

5. ビデオによる検証

前章でまとめた学生のコメントから、ビデオ映像と音声により確認できる項目を取り上げ検証する。始めに、上演時に教室の最後部から録画したビデオより、経過時間と情景・内容を記録し、表13と表14に記す。

5-1. 「赤ずきんちゃん」のビデオより

「赤ずきんちゃん」はグリム童話の『赤ずきん』を基に、登場人物の設定と内容を一部変更して、オペレッタとして創作した。

表13 「赤ずきんちゃん」の流れ

時間	演技の内容
0:12	双子の赤ずきんちゃん（女子1, 女子2）登場
0:26	おばあさんの家にケーキと葡萄酒をもって見舞いに行く
0:45	軽快でリズムカルなBGM
0:56	往路で赤ずきんちゃんが狼（女子3）と会う
1:40	狼がおばあさんを食べる
1:52	狼のお腹が大きくなる 茶色の模造紙で大きなお腹を表現した
2:09	赤ずきんちゃんがおばあさんの家に到着
2:34	赤ずきんちゃんがおばあさんに扮した狼に「歌をうたいましょう」と呼びかけ、『おかあさん』の替え歌を歌う「おかあさん」を「おばあさん」と変える
2:44	歌の途中で「耳が大きいんじゃない?」「目が大きくない?」「まあ、大きなお口だこと」と狼に呼びかける
3:20	「(大きな口) どうしたの?」と言うと、狼が「おまえたちを食べるためだよ」
3:28	「うそ、うそ、うそうそうそ〜」(ギャグ) と答える
3:35	狼が赤ずきんちゃんを食べる
3:46	サングラスをかけた狐師（女子5）が登場
4:05	狼のお腹を開ける
4:12	おばあさんと赤ずきんちゃんが出てくる
4:23	「助けてくれてありがとう」
4:50	狼のお腹に石をつめる
5:56	「いたずらしないと約束したら、お腹の石を出してあげるよ」
6:15	「皆で仲良く幸せに暮らそうね」
6:29	『幸せなら手をたたこう』全員で歌う
7:00	2番の歌詞は、「手をたたこう」→「手をつなごう」と変え、テンポを速く歌った
7:35	終了

5-2. 「山の音楽家」のビデオより

「山の音楽家」は歌詞に、ヴァイオリン、ピアノ、フルート、太鼓の順で楽器が現れ、それらの楽器の音をオノマトペで表現している。このグループの発表では、ヴァイオリン、ピアノ、フルートにトロンボーンとクラリネットとギターを追加した合奏を行った。

表14 「山の音楽家」の流れ

時間	演技の内容
0:10	キツネのお面をつけた男子1がギターGtrをもって登場
0:20	「山に音楽家がいると聞いたけど、本当にいるのかな?」
0:32	子リスのお面をつけた女子1がバイオリンVn（実際はビオラ）をソロで演奏する（16小節程度）
1:20	歌の後半はVnを弾く真似をして、「キュキュ〜」と歌うように指示した
1:40	Vn+Gtr「山の音楽家」の1番を合奏 全員で歌う
2:11	ウサギのお面をつけた男子2が登場 3人のかけあいの後、ピアノPfを弾いて、
2:45	Vn+Gtr+Pf 合奏「ポポポロン〜」と歌う
3:18	小鳥のお面をつけた女子2が登場 4人のかけあいの後、フルートFlを演奏して、
3:38	Vn+Gtr+Pf+Fl 「ピビピッピッピッ〜」と歌う
4:20	スマホで、ぞうさんと呼ぶ
4:34	象のお面をつけた女子3が登場 5人のかけあいの後、トロンボーンTrbを演奏して、
4:50	Vn+Gtr+Pf+Fl+Trb 「パババ〜」と歌う。手を前後に動かす動作が楽しめる
5:38	パンダのお面をつけた女子4が登場 6人のかけあいの後、クラリネットClを吹いて、
6:36	Vn+Gtr+Pf+Fl+Trb+Cl 「パララン〜」と歌う
7:18	「みんなでそろえて弾くと楽しいね」
8:26	全員で好きな楽器の真似をして歌う
9:20	「皆でいっしょに楽しく遊びましょう」
9:30	終了

6. 結果の検証

オペレッタの企画・制作を通して、学生が保育内容「表現」「言語」に関連する表現の能力を育むことを期待している。前述の、4. 学生のコメントおよび、5. ビデオによる検証から、学生が子どもたちに分かりやすいように工夫し、またユ

ニークな企画を提案している具体的な事例を取り上げて検討する。

6-1. 「赤ずきんちゃん」の検証

①赤ずきんちゃんを双子の設定に変えた

双子の配役にしたことで、赤ずきん同士の会話がすすみ、二人のやりとりでドラマの楽しさを表現できた。

②狼のお腹が大きくなった様子を、茶色の模造紙で抽象的に表現した

大きなお腹をあえてリアルに作り込まず、模造紙を長方形のまま衝立とする奇抜な工夫がみられた。抽象的な舞台道具であるが、自由な想像力をもつ子どもたちにも理解できると考えられる。

③赤ずきんが『おかあさん』の替え歌を、おばあさんに化けた狼に歌う

『おかあさん』の歌詞を「おばあさん」に替えて歌う。作詞：田中ナナ、作曲：中田喜直による『おかあさん』は、始めのメロディーが優しく「おかあさん」（本公演では「おばあさん」と呼びかける曲調で、赤ずきんちゃんの優しさを歌で表現することができた。

④ハッピーエンドの物語に変更した

グリム童話のシナリオを、最後は狼も共に仲良く暮らすように変更して、「皆で仲良く幸せに暮らそうね」の台詞で締めくくった。学生のコメントでは、このシナリオの変更を歓迎する内容が23名から寄せられ、好評であった。

⑤締めくくりの歌に『幸せなら手をたたこう』を使った

2番の歌詞では「手をたたこう」を「手をつなごう」に替え、視聴学生も含めた全員で歌と手遊びでまとめた。

オペレッタにおける替え歌はシナリオに合わせて歌詞を作り替えられる点、また皆が承知しているメロディーであれば歌いやすい点で有効である。棚瀬らは替え歌を使ったミュージカルの表現活動の実践報告の中で「～すべての発表が終わった時に司会者がみんなでテーマ曲を歌おうと提案すると、学生全員が舞台にあがり、手を繋ぎ肩を

組み笑顔で歌う姿を見た時には、学生たちが保育の現場にたった時に、この授業で学習したことを活かしてくれるのではないかと感動した」（棚瀬ら 2014）と述べている。

6-2. 「山の音楽家」の検証

①全員が楽器を演奏した

「山の音楽家」は元の歌詞が、それぞれの動物が4種の楽器を演奏する内容となっている。小りす=バイオリン、うさぎ=ピアノ、小鳥=フルート、たぬき=太鼓

本発表では、ギター（きつね）、バイオリン、ピアノ、フルート、トロンボーン（象）、クラリネット（パンダ）の順に音を重ねて、最後に全員で合奏と斉唱を行った。各楽器の演奏者は、それぞれの動物のお面をつけているため、子どもたちにも分かりやすい構成である。

②替え歌の歌詞を掲示して、演奏者が加わる毎に貼り直した

ひらがなで書かれた歌詞を掲示することは、子どもたちに文字への興味付けといった意味から有用である。ひらがなの指導を行わない園であっても、歌とともに文字への関心を喚起することは大切であると考えられる。

③最後の合奏で、音楽を皆で合わせる楽しさを伝えた

エンディングは6種の楽器による合奏に合わせて全員で「山の音楽家」を斉唱した。学生のコメントにも皆で歌ったり演奏したりすることにより「一人よりみんなが楽しいというテーマが伝わった」「歌の部分が参加型で、楽しめる構成」との内容の意見が複数寄せられた。この点からも、合奏の楽しさを伝えたいというテーマが実現できたことと考えられる。

「山の音楽家」は合奏と合わせて歌うパフォーマンスを取り入れたことで、学生から「盛り上がった」「楽しめる」とのコメントが合計40件あった。この点は、保育所保育指針の表現の内容「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう」（厚生労働省

2008 p.18) ことを具現したパフォーマンスであった。

7. おわりに

保育内容の領域「表現」と「言葉」にかかわる「保育内容B」の授業内容のうち、オペレッタの創作・発表について振り返りを行った。授業では初めに「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」から教育に関わるねらい及び内容の説明の後、絵本の読み聞かせ、ペープサート・パネルシアター、リトミックの演習をそれぞれ3コマずつ実施した。演習はロールプレイングの形式で行なったため、学生は子どもを対象としたペープサートやパネルシアターの制作、そして子どもたちへの言葉がけの力をつけたものとする。これらの演習のまとめとしてオペレッタの企画・制作・発表を行った。オペレッタ演習のねらいとして「子どもに分かりやすい表現」を掲げた。本論では、学生からのコメントとビデオを検証することにより、子どもに分かりやすい表現の工夫がどのようにされたかを明らかにした。検証の結果、シナリオや構成、小道具の制作、音楽の使用の4点について、表現の工夫が認められた。①シナリオや構成については、赤ずきんちゃんを双子の設定にして会話に変化をもたせ、ドラマの楽しさを表現した。またハッピーエンドの物語に変更したことで、「皆で仲良く幸せに」とのテーマが確かに伝わった。②小道具の制作については、狼のお腹が大きくなった様子を、茶色の模造紙で抽象的に作ることで、子どもの自由な想像力を喚起した。③音楽の使用について、替え歌をシナリオに合わせて適切に挿入した。本論で検証したオペレッタでは、おばあさんに化けた狼に歌う歌として『おかあさん』の替え歌を使う例がみられた。また、発表者全員が異なる楽器を演奏して、子どもたちに合奏の楽しさが伝わった。

本論では、2つの発表について検証したが、他のグループの発表においても、子どもに分かりやすい表現の工夫が随所にみられた。「保育内容B」

の授業を通して、子どもの豊かな感性や創造性を育む必要性を受講生が理解してくれたものと確信する。今回明らかになった「子どもに分かりやすい表現の工夫」を、次の学年に伝え、さらに充実した表現の指導をめざしたい。

引用文献

- 文部科学省. 2008. 幼稚園教育要領〈平成20年告示〉. フレーベル館. p.10～12
- 厚生労働省. 2008. 保育所保育指針〈平成20年告示〉. フレーベル館. p.17～19
- 棚瀬麻実子・滝澤真毅. 2014. 音楽的表現力を育てる授業へのアプローチ：ミュージカルの表現活動を取り入れた学習活動を通して. 帯広大谷短期大学紀要 (51). p.70
- 清水桂子. 2014. 保育者養成における遊びの工夫と展開の実践過程：言葉・身体・音楽の表現による多様な保育内容の理解を目指して. 北翔大学短期大学部研究紀要 52. p.70

付録 学生に提示した「ハミガキしようね」の台本（筆者作成）

オペレッタ「ハミガキしようね」

（教師・保育者が演技、幼児に見てもらおう、
ファイナーレ「はをみがきましょう」は幼児もいっしょに全員で歌とダンス）

登場人物

ナレーター

小倉太郎君

小倉花子さん(太郎の母)

歯ブラシ君

薬用ハミガキ・ミント味さん

バイキン君バイキンさん

あらすじ

○シーン① 小倉家のリビング

太郎君が幼稚園から帰る

おやつ時間

歌1『バナナのおやこ』ダンスと歌

バナナヨーグルトを食べる

あゝ 疲れた

ハミガキしないで昼寝

○シーン② 太郎君の口の中

バイキン君バイキンさん登場

バイキン君バイキンさん、太郎君の歯を攻撃

歌2『バイキンのうた』

お母さんが太郎君を起こし、ハミガキさせる

歌3『はをみがきましょう』ダンスと歌

歯ブラシ君登場、薬用ハミガキ・ミント味さんを呼ぶ

薬用ハミガキ・ミント味さん登場

歯ブラシ君薬用ハミガキ・ミント味さん、バイキン君バイキンさんと戦い

歯ブラシ君・薬用ハミガキ・ミント味さんの勝ち

虫歯にならなくて、よかった・よかった

これから、食後にハミガキしようね

歌4 子どもたちもいっしょに『はをみがきましょう』

ナレーター

これから、「ハミガキしようね」というオペレッタを上演します。最後まで、みんな楽しんでください。

さて、今日の主役は、幼稚園年長組の小倉太郎君です。

太郎君はとっても元気でかけっこが得意です。

今日も幼稚園でたくさん遊んで、もうすぐお家に帰ってきます。

お家では、太郎君のおかあさんが、おやつをつくって待っています。

シーン①

小倉家リビング

太郎君

小倉花子さん

(太郎の母)

太郎君

花子さん

太郎君

花子さん

太郎君

花子さん

太郎君

花子さん

(シンボン)

「ただいま！」

「お帰りなさい！」

「今日は幼稚園、楽しかった？」

「うん、〇〇君とおままごとやった」

「そーお、二人とも変わった子ね」

「おかあさん、腹へった！」

「おやつ、用意してあるわよ。今日のおやつは何だと思おう？」

「うーん、バナナかな」

「だって、通りの向こうの果物屋で、バナナ一ふさ百円で投げ売りしてたじゃん」

「そう、ばれたか！ それじゃ、今日のおやつは、はい、バナナヨーグルト」

「じゃ、いただきます」

「ちよつと、待って。おやつを歌を唄ってからよ！ 小倉家の しーきーたりー」

『バナナのおやこ』ダンスと歌 (出演者皆で)

ちいさな ちいさな 南の島に

黄色いバナナのおやこがほらね

風にゆられて ユーラ ユラ

バナナのおやこが ユーラ ユラ

バナナのペパは パパ バナナ

バナナのママは ママ バナナ

バナナの子どもは コバナナ

パパ バナナ ママ バナナ コバナナ

(バナナヨーグルトを食べる)

「あゝ、おいしかった。それじゃ、昼寝するね」

「あら、歯をみがいてからにして！」

「うーくん、疲れた・・・眠いです」(すったもんだの末、寝てしまう)

あれあれ？ 太郎君 歯をみがかないで寝てしまいました。

お口の中はどうなっているかしら？

シーン②

太郎君の口の中

バイキン君

バイキン君

バイキン君

(口の中、大きな歯の模型)

「しめ・しめ・・、この子の歯、きたないね」(狡猾そうな表情)

「バナナのかすが いっっぱい！」(嬉しい顔)

「おいしそうだぞ」

バイキンさん	「ついでに歯も食べちゃいましょうよ」 (バイキン君、バイキンさんは、歯を磨かず・食べる仕草をする) 『バイキンのうた』(わらべうた「ひらいたひらいた」のメロディーに簡単な歌詞 バナナのかすが美味しいね ムシヤムシヤ ムシヤムシヤ 歯クソもとってもおいしいね ムシヤムシヤ ムシヤムシヤ
(場外から)	
花子さん	「太郎！起きなさい、歯みがきするのよ」
太郎君	「う〜ん、しょうがない、歯みがきするか」
歯ブラシ君	『はをみがきましょう』歌とダンス(太郎君、花子さん、ナレーター)
ハミガキさん	「あ〜っ、大変だ！ 太郎君の歯がピンチ、薬用ハミガキ・ミント味さ〜ん呼びかけ」
バイキン君	「は〜い、歯ブラシ君 歯みがき、がんばって〜」
ナレーター	C D音楽『虫歯建設株式会社』 (歯みがきのデモンストラーションの後、歯ブラシ君ハミガキさんバイキン君さんの戦い) 「う〜へ〜っ・・やられた〜 降参です」(バイキン君さん退場) 「食べた後、歯みがきすると、バイキンをやつつけられるんだね」 「虫歯にならなくて、よかった・よかった」 「みんなも 歯みがき しようね！」
出演者全員で	「それでは、会場のお友だちといっしょに『はをみがきましょう』を歌いましょう」
会場の子どもたち	(子供たちを起立させて、打楽器も入れて、皆で歌とダンス)
ちといっしょに	『はをみがきましょう』 歯を磨きましょうシユ、シユ、シユ お口の体操 おイチニ、おイチニ 元気な歯になれ、シユ、シユ、シユ、 歯を磨きましょうシユ、シユ、シユ、 お口の体操、おイチニ、おイチニ 丈夫な歯になれシユ、シユ、シユ